

特別企画：九州・沖縄地区の外食産業売上高ランキング（2021年度）

2021 年度の売上高合計は前年度比 6.2%減

～ 損益が改善した企業、時短協力金もあって前年度比 15 社増の 26 社～

はじめに

一般社団法人日本フードサービス協会が 2022 年 1 月に発表した 2021 年（令和 3 年）の外食産業の市場動向調査によると、新型コロナウイルス（以下、新型コロナ）感染拡大の影響による 2 回目の緊急事態宣言の発出や度重なるまん延防止等重点措置による規制もあって、合計売上高は前年比 1.4%減となった。一方で、前年と引き続き飲食店のなかでもドライブスルーやデリバリーを行っていた企業は巣ごもり需要を受けるほか、「ファストフード」は好調を維持するなど、飲食店業界内においても明暗が分かれているのが現状だ。

帝国データバンク福岡支店では、企業概要データベース「COSMOS2」（約 147 万社収録）から、九州・沖縄地区（以下、九州）に本社を置き、外食事業を主業とする企業を抽出。売上高上位 50 社の 2021 年度（2021 年 4 月期～2022 年 3 月期）の売上高や税引き後利益、その伸び率などをまとめた（売上高には一部推定を含む）。

なお、本調査でいう「外食」には、レストランなど飲食店における「飲食」事業をはじめ、持ち帰り弁当や宅配サービスなど料理品小売業に分類される「中食」事業、病院・福祉施設などにおける「給食」事業も含めて集計した。

本調査は 2021 年 12 月（2020 年度調査）に続く 22 回目。

調査結果（要旨）

1. 2021 年度の売上高ランキングは、持ち帰り弁当店「ほっともっと」や定食店「やよい軒」を展開する（株）プレナス（東証プライム、福岡市）が 19 年連続のトップ
2. 2021 年度の売上高伸び率ランキングは（株）タケノ（福岡市）がトップ。以下、（株）食物語（鹿児島市）、イートスタイル（株）（宮崎県小林市）と続いた
3. 売上高上位 50 社の 2021 年度の合計売上高は前年度比 6.2%減の 4056 億 3800 円と、2 年連続で減少した
4. 前年度売上高との比較が可能な 48 社のうち「増収」企業は 20 社（構成比 41.7%）となり、2 年ぶりの 20 件台。他方、損益が改善した企業は前年度比 15 社増の 26 社（構成比 54.2%）となった
5. 倒産（法的整理のみ、負債 1000 万円以上）件数は、前年度比 33.8%減の 43 件（22 社減）となった。コロナ関連融資等による各種優遇措置あって、前年度を下回った

1. 売上高ランキング [50位までのランキング表は末尾掲載]

2021年度の売上高ランキングでトップになったのは、持ち帰り弁当店「ほっともっと」や定食店「やよい軒」を展開する**(株)プレナス（東証プライム、福岡市）**。「ほっともっと」事業では、引き続きコロナ禍による中食の需要が高まったとともに、QRコード決済や電子マネーによる非接触型決済の拡充を行ったほか、ネット注文やデリバリーサービスの強化も図り、リピーター獲得に注力した。直営店の加盟店への移管など減収要因はあったものの、既存店の売上高増加もあって、前期実績を上回った。

「やよい軒」事業は、新型コロナウイルス禍の営業時間短縮の影響で客足が鈍った時期もあったが、テイクアウトメニューの販売に力を入れ、既存店の売上高は前期比0.8%増、総売上高も前期比1.8%増の1322億400万円となった。

九州・沖縄地区 外食産業売上高ランキング上位10社(2021年度)

順位	前年度順位	商号	所在地	事業形態	主な「店舗名」、事業内容	決算月	売上高 (百万円)	前年度比 売上高 伸び率
1	1	(株)プレナス	福岡市	中食	持ち帰り弁当「ほっともっと」、定食店「やよい軒」	2	132,204	1.8%
2	2	※ ジョイフルグループ各社合計	大分市	飲食	ファミリーレストラン「Joyfull（ジョイフル）」	6	43,199	▲19.9%
3	4	(株)一蘭	福岡市	飲食	ラーメン店「一蘭」	12	15,416	1.7%
4	3	(株)ヒライ	熊本市	中食	持ち帰り弁当店「おべんとうのヒライ」、讃岐うどん丼処「麺許皆伝」	5	15,201	▲5.8%
5	7	東洋食品(株)	北九州市	中食	量販店内総菜店「味処 花咲」「四季の創菜処」「花小町」「味花」	11	13,061	▲1.6%
6	10	J R九州ファーストフーズ(株)	福岡市	飲食	「ケンタッキーフライドチキン」「ミスタードーナツ」「モスバーガー」「シャトルス・ヘストコーヒ」各FC	3	12,300	18.9%
7	9	(株)ウエスト	福岡市	飲食	うどん・そば店、焼肉店「WEST（ウエスト）」	2	12,143	1.2%
8	8	栄食メディックス(株)	福岡市	給食	施設内の飲食サービス業務の受託運営	9	12,022	▲0.6%
9	5	梅の花サービス(西日本・東日本)	福岡県久留米市	飲食	飲食店「湯葉と豆腐の店 梅の花」	4	9,792	▲30.6%
10	11	(株)力の源カンパニー	福岡市	飲食	ラーメン店「一風堂」、「名島亭」	3	9,778	14.2%

〔売上高には推定値を含む〕

※ (株)ジョイフルは、2016年1月に直営店舗の事業部門を11の地域子会社に分割譲渡、持ち株会社へ移行した。売上高は、(株)ジョイフルおよび各地域子会社の直営店販売実績合計(有価証券報告書記載)。なお、2020年10月1日付けで(株)ジョイフル関東は(株)ジョイフル北日本に、(株)ジョイフル東関西・北陸は、(株)ジョイフル関西にそれぞれ合併している。

2位は、ファミリーレストラン「Joyfull」を展開する**ジョイフルグループ（福証、大分市）**。既存メニューのブラッシュアップを継続し、提供品質の向上を進めるとともにフェアを5回、グランドメニューの改定を1回実施した。また、スマートフォン専用アプリ「ジョイフルアプリ」のリニューアルや「ジョイフルLINE公式アカウント」を開設するほか、テイクアウトやデリバリー販売の強化も図った。しかし、コロナ禍による営業時間短縮要請から来店客数は予想を大きく下回った。さらに、不採算店舗の閉鎖も行った結果、前期比19.9%減の431億9900万円となった。

3位は、天然とんこつラーメン専門店を展開する**(株)一蘭（福岡市）**。期初から期中にかけて仙台市と岡山市にそれぞれ新規出店したが、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されたことで休業を余儀なくされ店舗部門は減収となった。しかし、物販事業においては、自社通販サイトに加え「ふるさと納税返礼品」にも登録。さらに、カップ麺「一蘭とんこつ」の販路拡大にも努めたことで、前期比1.7%増の154億1600万円となった。

2. 売上高伸び率ランキング

2021年度の売上高伸び率ランキングでトップになったのは、売上高ランキング33位の**（株）タケノ（福岡市）**。北部九州地区を中心に「竹乃屋」の屋号で居酒屋を運営するほか、「博多ビストロタケノヤ」などを手がけている。2020年度は緊急事態宣言の発出による営業自粛により大半の店舗が一時休業を余儀なくされたことで大幅減収を強いられたものの、2021年度は新規出店による売上増や同年10月以降の行動制限の緩和による反動増から前期比46.3%増となった。

2位には、売上高ランキング40位の**（株）食物語（鹿児島市）**が入った。「焼肉きんぐ」や「お好み焼き本舗」等のFC店を運営している。期中は「丸源ラーメン」FC店を複数新規出店したことで売り上げが寄与した。また、主力の「焼肉事業」においては、コロナ禍にもかかわらず、換気能力の高さからファミリー層を中心に集客が増加し、前期比38.8%増となった。

3位は、売上高ランキング13位の**イートスタイル（株）（宮崎県小林市）**。「いきなりステーキ」や「ペッパーランチ」等のFC店を運営している。伸び率1位の**（株）タケノ**と同様、10月以降の行動制限の緩和による反動増のほか、期中に商業施設内で新規出店を多く手がけたことから、前期比29.8%増となった。

九州・沖縄地区 外食産業売上高伸び率ランキング上位10社(2021年度)

伸び率順位	全体順位	商号	所在地	事業形態	主な「店舗名」、事業内容	決算月	売上高 (百万円)	前年度比 売上高 伸び率
1	33	（株）タケノ	福岡市	飲食	居酒屋「竹乃屋」「博多ビストロタケノヤ」	3	2,626	46.3%
2	40	（株）食物語	鹿児島市	飲食	「焼肉きんぐ」「お好み焼き本舗」「丸源ラーメン」FC	12	2,242	38.8%
3	13	（株）イートスタイル	宮崎県小林市	飲食	「いきなりステーキ」「ペッパーランチ」「ボボラマ」「サーティワンアイスクリーム」各FC	2	5,551	29.8%
4	47	（有）マルオカ	宮崎県都城市	中食	持ち帰り専門店「ぎょうざの丸岡」	7	1,888	20.3%
5	6	J R九州ファーストフーズ(株)	福岡市	飲食	「ケンタッキーフライドチキン」「ミスタードーナツ」「モスバーガー」「シトラス・ハート・ステーキ」各FC	3	12,300	18.9%
6	10	（株）力の源カンパニー	福岡市	飲食	ラーメン店「一風堂」、「名島亭」	3	9,778	14.2%
7	12	昭和フード(株)	佐賀市	飲食	「マクドナルド」FC	3	7,049	13.2%
7	19	J R九州フードサービス(株)	福岡市	飲食	創作料理店「うまや」、居食店「驛亭」、駅構内レストラン	3	4,167	13.2%
9	46	（株）アベックスコーポレーション	福岡県久留米市	飲食	ラーメン店「龍の家」、「コメダ珈琲店」FC	10	1,893	11.4%
10	39	（株）桜家	北九州市	飲食	「焼肉きんぐ」「かつや」「丸源ラーメン」FC	3	2,270	10.2%

〔売上高には推定値を含む〕

3. 売上高上位 50 社の合計売上高推移

九州の 2021 年度の外食産業合計売上高合計（売上高上位 50 社）は前年度比 6.2%減の 4056 億 3800 万円と、2 年連続で減少。2010 年度調査以降、過去最少となった。

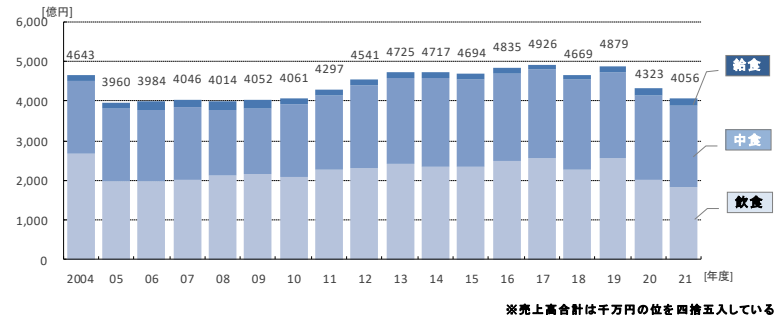
業態別にみると、「飲食」が前年度比 8.6%減の 1851 億 7200 万円（構成比 45.6%）と 2 年連続で減少。2006 年度調査（1970 億 7100 万円）以来、15 年ぶりに 2000 億円台を下回った。期中はワクチン接種の普及が進んだ一方で、度重なる緊急事態宣言やまん延防

止等重点措置の適用が長期化に加え、2021 年 12 月以降は、変異株「オミクロン株」の流行から再び経済活動の制限で客足が鈍く売り上げが激減したとする意見が多くを占めた。

「中食」は同 4.3%減の 2037 億 6400 万円（同 50.2%）と、3 年連続で減少した。プレナスを除いた「中食」の合計売上高は前年度比 13.8%減の 715 億 6000 万円と、2 年ぶりに前年度を下回り、800 億円台を下回った。プレ

ナスを除く「中食」の減収要因としては、前期は巣ごもり需要によってデリバリーサービスや「シェアリングエコノミー型」の宅配サービスの利用が増加したことにもない、売り上げも増加したとする企業やテナントとして入居しているドラッグストアや、ディスカウントストアが同需要によって集客が増加したこと起因して、増収に至ったとする理由が散見された。しかし、同期は売上高ランキングトップのプレナスの売り上げは若干増収したものの、上位を占める（株）ヒライや東洋食品（株）の売り上げ減となったほか、巣ごもり需要の反動減や 10 月以降の経済活動再開による外食産業活性化の影響もあって上記の結果となった可能性が高い。

■九州の外食産業売上高上位50社の合計売上高推移



■売上高上位50社の事業形態別売上高推移

		飲食	中食	給食	合計
2019年度	合計売上高	258,067	216,633	13,200	487,900
	社数	36	13	1	50
2020年度	合計売上高	202,640	212,959	16,651	432,250
	社数	34	13	3	50
2021年度	合計売上高	185,172	203,764	16,702	405,638
	社数	33	14	3	50

※ 集計企業は、毎年入れ替わりがある

(単位 上段：百万円、下段：社)

■「プレナス」を除く49社の合計売上高の推移

(単位：百万円)

		50社 合計売上高 (A)	「中食」 合計売上高 (B)	プレナス 売上高 (C)	49社 合計売上高 (A-C)	プレナス除く 「中食」 合計売上高 (B-C)
2019年度	合計売上高	487,900	216,633	138,023	349,877	78,610
	前年度比伸び率	4.5%	▲4.3%	▲3.4%	8.0%	▲5.8%
2020年度	合計売上高	432,250	212,959	129,917	302,333	83,042
	前年度比伸び率	▲11.4%	▲1.7%	▲5.9%	▲13.6%	5.6%
2021年度	合計売上高	405,638	203,764	132,204	273,434	71,560
	前年度比伸び率	▲6.2%	▲4.3%	1.8%	▲9.6%	▲13.8%

4. 売上高・損益の推移

売上高上位 50 社のうち、前年度との比較可能な 48 社の売り上げ動向を見ると、「増収」企業は前年度比 9 社増の 20 社となり 2 年ぶりに 20 件台となった。一方、減収企業は同 8 社減の 27 社。業態別に増収企業をみると、「飲食」が前年度比 9 社増の 15 社、「中食」は同 1 社増の 4 社で、両事業ともに営業自粛要請の解除があり、外食需要の増加が起因した。

他方、損益が悪化した企業（「減益」「赤字転落」「赤字拡大」の合計）は 10 社（構成比 20.8%）で前年度比 16 社減。一方、損益が改善した企業（「増益」「黒字転換」「赤字縮小」の合計）は前年度比 15 社増の 26 社（同 54.2%）となったのは注目すべきだ。従来から収益圧迫の要因となっている食材価格の高止まりも見受けられたなか、前期は新型コロナによる影響の減収分をカバーできなかった企業が大半だったものの、期中は徹底した経費削減に加え、営業時短要請の協力にともなう時短協力金から損益が改善したという企業が多くみられた。

5. 倒産動向

九州における外食産業の倒産（法的整理のみ、負債 1000 万円以上）件数をみると、2021 年度は前年度比 33.8%減（22 社減）の 43 件だった。外食産業と内訳別の飲食（40 件、同 20.0%減）と中食（3 件、同 80.0%減）ともにコロナ関連融資等による柔軟な優遇措置対応もあって、前年度を下回った。

負債総額は同 44.2%減の 20 億 7100 万円。負債額が 3 億円を上回ったのは、(株)大成物産（福岡県朝倉市、2021 年 6 月破産手続き開始、負債約 3 億円）の 1 件のみ発生し、同 1 億円未満の倒産が 39 件（構成比 90.7%）と小規模倒産が中心となった。

■売上高上位50社の売上高／損益状況

	黒字			赤字			未詳	合計
	増益	黒字転換	減益	赤字転落	赤字縮小	赤字拡大		
増収	7 (6)	3 (0)	3 (2)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	4 (3)	20 (11)
減収	6 (3)	5 (1)	2 (11)	3 (8)	4 (1)	0 (5)	7 (6)	27 (35)
横ばい	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
合計	13 (9)	8 (1)	5 (13)	4 (8)	5 (1)	1 (5)	12 (9)	48 (46)

※ 2020年度は前年度との比較が困難な4社を除く46社、2021年度は同様に2社を除く48社を分析した

■飲食事業者の売上高／損益状況

	黒字			赤字			未詳	合計
	増益	黒字転換	減益	赤字転落	赤字縮小	赤字拡大		
増収	6 (4)	2 (0)	1 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (1)	15 (6)
減収	4 (2)	3 (1)	0 (7)	3 (7)	3 (0)	0 (5)	5 (4)	18 (26)
合計	10 (6)	5 (1)	1 (8)	4 (7)	4 (0)	1 (5)	8 (5)	33 (32)

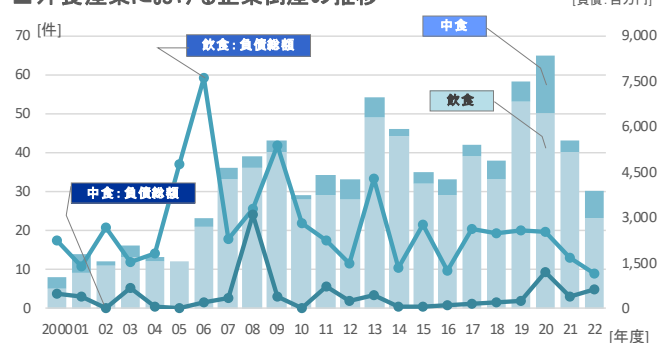
※ 2020年度は前年度との比較が困難な2社を除く32社、2021年度は33社を分析した

■中食事業者の売上高／損益状況

	黒字			赤字			未詳	合計
	増益	黒字転換	減益	赤字転落	赤字縮小	赤字拡大		
増収	1 (1)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	4 (3)
減収	1 (1)	2 (0)	2 (4)	0 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	7 (8)
横ばい	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
合計	2 (2)	3 (0)	3 (5)	0 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (2)	12 (11)

※ 2020年度は前年度との比較が困難な2社を除く11社、2021年度は同様に2社を除く12社を分析した

■外食産業における企業倒産の推移



2022年度は2022年4月から2022年10月までの7カ月間
倒産件数は計30件（うち「飲食」23件、「中食」7件）

なお、2021 年度における外食産業の倒産のうち、「新型コロナウイルス関連倒産」は 26 件発生した。内訳別では、飲食店が 25 件、中食が 2 件。2022 年度（同年 10 月までの 7 カ月間）に入ると、30 件中 24 件が同関連倒産で占められており、うち、飲食店が 23 件中 20 件、中食が 7 件中 4 件発生していることから近時は倒産した企業の大半が新型コロナの影響を受けて倒産している。

まとめ

売上高上位 50 社の合計売上高は前年度比 6.2%減の 4056 億 3800 万円と 2 年連続で減少し、2010 年度調査以降、過去最少となった。減収要因として「飲食」では長期化する新型コロナの影響にともなう緊急事態宣言の発出やまん延防止重点措置の適用により休業や時短営業を余儀なくされたほか、変異株「オミクロン株」の流行から客足が鈍く、売り上げが減少したとする理由があげられた。

「中食」では、前期に引き続き、巣ごもり需要の恩恵から増収企業が増えることが予想されていたものの、減収企業が増収企業を 3 社上回る結果となった。「中食」の減収要因として、個社企業では「不採算店舗の退店が新規出店を上回り店舗数が純減となった」ことや、「出店しているスーパーの競合激化などによる閉店」などが散見された。また、巣ごもり需要の反動減や緊急事態宣言解除など経済活動再開による外食産業の活性化に加え、飲食店のデリバリー進出が増えたことで巣ごもり需要のニーズを狙った競合が激化したことも合わせ、中食の需要が低迷した可能性が高い。

倒産件数は 2000 年以降最高件数だった 2020 年度（65 件）を 22 社下回り、43 件を記録した。うち、「新型コロナウイルス関連倒産」は 26 件発生。また、2022 年度（同年 10 月までの 7 カ月間）は、30 件中 24 件が同関連倒産で占められており、近時は倒産した企業の大半が新型コロナの影響を受けて倒産している。これまでは、政府・自治体、金融機関は実質無利子・無担保貸付や、雇用調整助成金、休業支援金・給付金をはじめとする各種資金繰り支援を進めていたことから、倒産件数は大きく抑制されていたが、今後は本格的なコロナ関連融資の返済が開始されることから、倒産だけでなく、休業・解散の増加も予想されている。

足元では、3 年ぶりに行動制限のない夏休み期間を迎えたほか、外国人観光客の受け入れを再開するなど、外食産業の客足回復に期待がもたれる。一方、原材料価格や燃料費の高騰から商品の値上げが相次いで発生し、値上げによる消費者離れを懸念材料とする企業も多く存在する。新型コロナの第 8 波の到来から再び飲食店を中心とする「個人関連消費」が低迷する可能性も高いことから、2022 年度も外食産業の苦境は続くともみられ、動向には注視する必要がある。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク福岡支店情報部 担当：橋谷祐樹（分析）／笠 維宏（集計）

TEL：092-738-7779 FAX：092-738-8687

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

九州・沖縄地区 外食産業売上高ランキング上位11～50社(2021年度)

順位	前年度順位	商号	所在地	事業形態	主な「店舗名」、事業内容	決算月	売上高 (百万円)	前年度比 売上高 伸び率
11	6	※ (株)イーティーズ	福岡県新宮町	中食	量販店内での惣菜・弁当小売	8	7,218	-
12	13	昭和フード(株)	佐賀市	飲食	「マクドナルド」FC	3	7,049	13.2%
13	22	(株)イートスタイル	宮崎県小林市	飲食	「いきなりステーキ」「ポポーママ」「サーティワンアイスクリーム」「ピピン亭」各FC	2	5,551	29.8%
14	15	※ (株)庄屋フードシステム	長崎県佐世保市	飲食	和食レストラン「庄屋」「雑魚屋」、天ぷら専門店「那かわら」	3	5,400	4.4%
15	20	(株)ポールスター	福岡市	飲食	「ケンタッキー・フライド・チキン」「ワッペン」FC	6	5,013	9.5%
16	14	※ (株)古市庵	福岡県久留米市	中食	持ち帰り寿司店「浪花古市庵」「おにぎり畑 晴れ晴れ」「おむすび紀行」	4	4,738	▲22.7%
17	17	九州惣菜(株)	北九州市	中食	量販店内総菜店「彩花」	9	4,600	▲0.9%
18	21	(株)ブレンズ	沖縄県浦添市	中食	持ち帰り弁当店「ほっともっと」、定食屋「やよい軒」FC	3	4,500	0.0%
19	26	J R九州フードサービス(株)	福岡市	飲食	創作料理店「うまや」、居食店「驛亭」、駅構内レストラン	3	4,167	13.2%
20	19	※ (株)梅の花 p l u s	福岡県久留米市	中食	持ち帰り総菜・弁当店「梅の花」	4	4,037	▲12.4%
21	12	※ (株)むすんでひらいて	福岡県新宮町	中食	量販店内での惣菜・弁当小売	8	3,837	-
22	27	昭和食品(株)	北九州市	中食	量販店内総菜店「味菜」	12	3,697	1.6%
23	23	(株)寿福産業	鹿児島市	飲食	和食店「ふく福」、黒豚料理店「寿庵」、ラーメン店「十八番」、回転すし店「めっけもん」	3	3,500	▲7.9%
24	29	(有)ホット・ショット	熊本市	飲食	「マクドナルド」FC	12	3,381	2.5%
25	25	(株)イワタダイナース	福岡市	中食	宅配ピザ、お好み焼き店「ピザクック」	2	3,374	▲8.5%
26	18	九州産交リテール(株)	熊本市	飲食	高速道路SAでのレストラン経営、熊本城桜の馬場城彩苑内レストラン	9	3,369	▲27.1%
27	28	(株)鹿児島なべしま	鹿児島市	飲食	焼肉レストラン「焼肉なべしま」	5	3,151	▲10.9%
28	24	エイ・アンド・ダブリュー沖縄(株)	沖縄県浦添市	飲食	ファーストフード店「A & W」	6	3,119	▲15.5%
29	31	風月フーズ(株)	福岡市	飲食	高速道路SA・空港でのフードコート・レストラン経営、「グルメ風月」	12	2,937	▲2.1%
30	32	(株)坂本	熊本市	飲食	回転すし店「九州すし市場」「ばんばん寿し」	7	2,883	▲3.2%
31	35	昭産商事(株)	北九州市	中食	量販店内総菜店「味の四季彩」	2	2,809	▲1.4%
32	34	M i コーポレーション(株)	福岡市	飲食	お好み焼レストラン「どんどん亭」、ファーストフード店「どんどんまるや」	5	2,733	▲5.1%
33	-	(株)タケノ	福岡市	飲食	居酒屋「竹乃屋」「博多ビストロタケノヤ」	3	2,626	46.3%
34	37	(株)うちだ屋	福岡市	飲食	食堂「うちだ屋」「麵勝」、セルフうどん店「めん勝」	9	2,600	▲2.1%
34	36	(株)唐十	北九州市	中食	からあげ惣菜や弁当店「唐十」	3	2,600	4.0%

〔売上高には推定値を含む〕

※ (株)イーティーズと関係会社の(株)むすんでひらいては、2021年6月に福岡県鞍手町から福岡県新宮町へ本店移転をしている。また、決算期を2月から8月に変更したため、前年比伸び率は算出できない。

※ (株)古市庵は、2022年5月に(株)梅の花 p l u s と合併し、商号を(株)古市庵プラスに変更しているものの、集計年度の関係からそれぞれ旧商号で掲載している

※ (株)庄屋フードシステムは、2021年9月1日付で(株)リールフードシステムを吸収合併している。

次ページに続く

順位	前年度順位	商号	所在地	事業形態	主な「店舗名」、事業内容	決算月	売上高 (百万円)	前年度比 売上高 伸び率
34	42	(有)熊本なべしま	熊本市	飲食	焼肉レストラン「焼肉なべしま」	5	2,600	▲13.3%
37	39	(株)昭和イーティング	福岡市	給食	施設内の飲食サービス業務の受託運営	10	2,580	5.5%
38	30	トリゼンダイニング(株)	福岡市	飲食	水たき料亭「博多華味鳥」	9	2,400	▲22.8%
39	45	(株)桜家	北九州市	飲食	「焼肉きんぐ」「かつや」「丸源ラーメン」FC	3	2,270	10.2%
40	—	(株)食物語	鹿児島市	飲食	「焼肉きんぐ」「お好み焼本舗」「丸源ラーメン」FC	12	2,242	38.8%
41	40	(株)ラブ	福岡市	飲食	もつ鍋店「おおやま」	8	2,166	▲10.5%
42	44	(株)日本ユニテック	沖縄県浦添市	給食	施設内の飲食サービス業務の受託運営	3	2,100	▲0.2%
43	43	(株)雄和	熊本市	飲食	焼肉レストラン「彩炉」、和風ダイニング「土房」	7	2,099	▲2.2%
44	16	(株)ジェイシーシー	沖縄県糸満市	飲食	沖縄地料理店「龍潭」「波照間」	5	1,986	▲58.9%
45	49	(株)ヤマナミ麺芸社	大分市	飲食	ラーメン店「太一商店」「味噌乃家」「ラーメン工房ふくや」「二代目長浜将軍」	9	1,961	2.4%
46	—	(株)アベックスコーポレーション	福岡県久留米市	飲食	ラーメン店「龍の家」、「コマダ珈琲店」FC	10	1,893	11.4%
47	—	(有)マルオカ	宮崎県都城市	中食	持ち帰り専門店「ぎょうざの丸岡」	7	1,888	20.3%
48	41	※(株)プレナス・エムケイ	福岡市	飲食	しゃぶしゃぶ店「MKレストラン」	2	1,848	▲14.2%
49	38	(株)J I S	福岡市	飲食	レストラン & バー「JIS」	9	1,800	▲29.2%
49	50	(株)エヌ・エヌ・ドウ	福岡市	飲食	「焼肉 蔵元」、「しゃぶしゃぶ温野菜」FC	2	1,800	▲4.2%

〔売上高には推定値を含む〕

〔前回順位に入っていない企業は前年度順位「-」としている〕

〔前年度比売上高伸び率を算出できない企業は「-」としている〕

※(株)プレナス・エムケイは、2022年6月1日付で関係会社の(株)プレナスに吸収合併されているものの、集計年度の関係からそれぞれ掲載している。